令和７年度　岩手県立総合教育センター運営協議会　会議の概要

１　日時

令和８年２月 16 日（月）　10 時～12 時

２　場所

総合教育センター　第１研修室

３　出席協議員

菅崎　晋　協議員、横手　勝美　協議員、高橋　幸美　協議員、坂水　かよ　協議員、山下　泰幸　協議員、木村　直樹　協議員、田代　高章　協議員、市川　尚　協議員、村上　弘　協議員、鬼柳　一宏　協議員、恒川　かおり　協議員　（以上 11 名）

４　センターの出席者

佐々木　寛　所長、高橋　英光　総務部長、吉田　幹伸　研修部長、松本　諭　支援指導部長、ほか各担当総括等の職員

～　以下、会議の概要　～

５　協議事項

(1)　令和７年度岩手県立総合教育センターの事業等について

(2)　令和８年度事業について

(3)　生成ＡＩを活用した校務の効率化に関する研究について

６　会議の内容

別添「令和７年度　岩手県立総合教育センター運営協議会議事録」のとおり

令和７年度　岩手県立総合教育センター運営協議会　議事録

１　開会

〇高橋総務部長

ただいまから令和７年度岩手県立総合教育センター運営協議会を開会いたします。

初めに、当センター所長の佐々木寛がご挨拶申し上げます。

２　所長あいさつ

〇佐々木所長

令和７年度岩手県立総合教育センター運営協議会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます協議員の皆様方におかれましては、お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃より当センターの運営につきまして、ご支援、ご協力を賜り、重ねて御礼申し上げます。先日開催いたしました、当センターが実施機関として運営を務めた「岩手県教育研究発表会」に足を運んでいただきました協議員の皆様、本当にありがとうございました。当センターは、岩手の復興教育や確かな学力の育成など、本県の教育課題の解決を図るため、岩手県民計画や岩手県教育振興計画、また、当該年度の岩手県教育委員会経営計画等を踏まえながら、「研修」「支援」「研究」の３つの事業を柱とし、現場に役立つセンターとしての役割を果たすべく、取り組みを進めているところでございます。１つ目の柱であります「研修」につきましては、初任者研修や中堅教諭等資質向上研修、ステージアップ研修など、教員の各キャリア、ライフステージに求められる資質向上を図るための研修、また、教員が主体的に選択する希望研修、また、教育課題に応じて行う特別研修等を実施しております。そのうちの 69 講座を、児童生徒の情報活用能力の育成を目指す「ICT 活用研修」と位置づけて実施しているところでございます。２つ目の「支援」につきましては、電話相談や来所相談に加えまして、不登校の高校生に対しては、学校復帰を支援する目的でセンター所内に設置してまいりました「ふれあいルーム」に加えまして、昨年度から「ふれあいルーム盛岡」を県立図書館内に開設するなど、相談業務の充実を図ってきたところでございます。３つ目の「研究」につきましては、今年度、本庁の学校教育室との共同研究を含めた所員の研究を３本、長期研修生の研究１本の、計４つのテーマに取り組んだところでございます。特に、生成 AI については、校務 DX や業務効率化、教育の質の向上のため、その活用の推進が急務とされておりまして、この後、協議員の皆様に研究の成果をご説明することとしております。本日は、センター事業の全般の実績など、３つの項目について協議題とさせていただいております。協議員の皆様方から頂いたご意見等を踏まえ、今後の運営に反映していきたいと考えておりますので、是非、忌憚のないご意見、ご要望等を賜りますようお願い申し上げまして、開会の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

３　協議員紹介

名簿をもとに協議員及びセンター出席者を紹介

４　会長及び副会長選出

議事に入る前に、会長・副会長の選任を行います。ご推薦はございませんでしょうか。（なし）

ないようですので、事務局から提案させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは事務局案として、会長に田代協議員、副会長に市川協議員を推薦させていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。（拍手）それではそのように決定させていただきます。議事の進行は田代会長にお願いいたします。これから協議に入りますが、運営協議会は、設置要綱第５条の３により、会長が議長となることとされておりますので、協議事項等の進行は田代会長にお願いいたします。なお、協議会の会議概要は、当センターのＷｅｂ（ウエブ）で公開しております。取りまとめた概要については、後日、協議員の皆様にご確認いただいたうえで、公開させていただきます。それでは田代会長、よろしくお願いします。

５　協議事項等

Ⅰ　令和７年度岩手県立総合教育センターの事業等について

○田代高章会長

会長に推挙されました岩手大学の田代と申します。本日の議事進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。それでは早速、協議に入ります。本日の協議事項はお手元の次第の通り、以下の３点です。

Ⅰ　令和７年度岩手県立総合教育センターの事業等について

Ⅱ　令和８年度事業について

Ⅲ　その他（生成 AI を活用した校務の効率化に関する研究）

最初に１つ目「令和７年度 岩手県立総合教育センターの事業等について」事務局から説明をいただき、その後、各協議員の皆様からご質問・ご意見を伺います。では事務局、説明をお願いします。

○吉田幹伸研修部長

協議資料１の１ページから、(1)研修事業についてご説明します。令和７年度、岩手県立総合教育センターの研修事業についてです。各学校でも校内研修を通して先生方の資質能力の向上を図っていますが、センターでも「教員等育成指標」や本県の教育課題（学力向上、不登校対策など）に基づき、研修を実施しています。研修の種類は６つです。

基本研修は、法定研修（初任者研修、中堅教諭等資質向上研修等）を中心に、本県独自のステージアップ研修（45 歳・55 歳対象）を組み込んだ研修です。

特別研修は、岩手県教育委員会主催で主任等の新任対応や、喫緊課題の研修です。

希望研修は、センター主催で教科の専門性深化や生徒指導など多岐にわたる研修です。

派遣研修は、各学校から長期（主に１年）でセンターに派遣し、教育研究、養成研修等に取り組むものです。

要請研修は、教育事務所や市町村教委等の要請に応じ、所員が地域に出向いて実施研修です。

随時研修は、各学校の先生方がセンターに来て受講する研修です。

研修の実施形態は、対面に加え、リアルタイムオンライン・オンデマンド・ハイブリッドを活用し、研修機会を拡充しています。

評価（リフレクション）については、令和７年度の結果は、基本研修で約 2,800 人の受講者のうち A 評価 92.7%、特別研修で約 1,000 人のうち A 評価 95%。総じて満足度は高い状況です。過去５年の傾向としては、B 評価を含む肯定的評価は約 99%超が５年間継続しています。要因として、講義型から交

流・協議・活用の場面を増やす「研修観の転換」を進めていることが挙げられます。一方、C 評価では「期待との乖離」や「演習時間不足」が指摘されており、次年度に向け改善します。中堅等資質向上研修・ステージアップ研修については、授業力向上研修（免許状更新講習）は令和３年度で廃止となりましたが、令和５年度から本県独自のステージアップ研修（45 歳・55 歳）を実施しており、11 年目対象の中堅教諭等育成研修も継続しています。令和７年度は夏季に実施し、中堅研共通（7/29）は 390 名が受講。会場はキオクシアアイーナ、センター、大船渡東高校等を活用しました。来年度も受講者負担軽減に配慮し、同様の体制で実施予定です。ICT 活用研修は、令和７年度の開設講座 119 のうち、69 講座で ICT 活用研修を実施しました。いわての情報活用能力体系表例に基づき、授業での効果的な ICT 活用を主眼に設計しています。本日扱う「AI を活用した校務改善」はこの区分には含めず、要請研修・随時研修で対応しています。要請研修・随時研修の受講者数についてですが、要請研修は、令和 7 年度 合計 4,543 人（前年約 3,600 人から増加）、随時研修は、令和７年度（12 月現在）57 名（令和 6 年度は 89 名）、移動センターは、12 月時点 217 名です。以上が令和７年度の研修事業概要です。

次に、研究事業について説明します。

今年度は所員研究３本、長期研修生１本の計４本となります。

・高等学校における特別な支援を必要とする生徒への進路指導の充実と、関係機関との連携に関する研究（所員研究）
・教師一人一人の授業改善につながる授業研究会の在り方に関する研究（所員研究）
・生成 AI を活用した校務の効率化に関する研究（所員研究）
・幼児教育と小学校教育の円滑な学びの接続－資質・能力をつなぐスタートカリキュラムの作成（長期研修生の研究）

これらの成果は、２月上旬の岩手県教育研究発表会で周知しました。

○松本諭支援指導部長

続きまして、支援事業について報告します。教育相談事業、ニーズに応じた業務の見直し、教育情報・資料提供等の３点です。先ず、教育相談事業ですが、令和７年度の総件数（令和８年１月末時点）は 1,023 件（前年同時期 966 件より増加）です。内容は多岐にわたっており、生徒指導関連や家庭生活に係る相談が増加しています。電話相談は減少、訪問相談は増加しています。来所相談は微増で、沿岸地区相談室など外部に出向く機会を設けたことによる増加です。成果と課題は６ページをご覧ください。不登校高校生支援のふれあいルームの花巻では２名を受け入れ、盛岡では５名を受け入れ、大きな混乱なく運営しました。また、学校教育室の取組として、教育相談コーディネーター養成研修を修了した学校教育相談エリア相談員の活用を進めており、地域の相談体制の充実に努めています。

ニーズに応じた業務見直しについては、沿岸地区相談室でのノウハウを県北地区にも拡大し、相談アクセス性を向上しているほか、本県の重点課題であるいじめ問題・不登校に対応するため、新たに関連研修講座を立ち上げ、全学校が 6 年以内に受講し、管理職等は期間内２回受講することしています。

教育情報・資料提供等については、『教育研究岩手』発行、ホームページ・Web での情報発信や Facebook での講座情報提供、登録教員に週１回配信する T サポメール等により迅速な情報提供を実施しています。情報機器関連の要請・随時研修にも対応し、生成 AI 関連のニーズが増加しています。センターの一般公開は事前申込制で、ほぼ定員に達し、参加者アンケートでも好評でした。説明は以上

です。

○田代高章会長

ありがとうございます。令和７年度の研修・研究・支援についてご報告いただきました。順番は設けませんので、ご質問・ご意見をお願いします。挙手でお願いいたします。いかがでしょうか。

○鬼柳一宏協議員

要請研修がかなり多い印象です。生成 AI 関連の要請も増えていると伺いましたが、具体的にどのような内容が多いのか教えてください。

○吉田幹伸研修部長

要請研修は担当室ごとに多様です。教科領域教育担当なら教科の専門性向上、情報・産業教育担当なら ICT や AI の活用、教育支援相談担当なら支援が必要な子どもへの授業での支援や生徒指導に関する校内研修等になります。

○鬼柳一宏協議員

最近の傾向として、多いものなどはありますか。

○吉田幹伸研修部長

不登校対策、支援が必要な子どもへの対応の研修が多く、加えて ICT・AI 関連が増えています。特に夏の指導主事研修会で「AI を活用した校務支援」を実施した後、市町村からの問い合わせや、各校担当者向けの同様の内容の要請が増えました。

○田代高章会長

他にいかがでしょうか。――山下協議員どうぞ。

○山下泰幸協議員

オンラインやオンデマンド受講時の集中度や環境についてですが、流し見になっていないか、学校で適切な環境が確保されているのでしょうか。

○吉田幹伸研修部長

オンデマンドは視聴後に対面研修へつなげる設計も採用しています。リアルタイムオンラインも双方向のやり取りを取り入れており、流しっぱなしにはなりません。研修後のリフレクション記述からも、内容理解と活用意図が読み取れます。

○山下泰幸協議員

５ページの相談内容別相談件数で非行が一気に増えているのが気になりました。家庭生活の相談増とも関係するように見えます。PTA としては家庭教育に一層取り組む必要性を感じました。これは先生のせいではないと思います。

○田代高章会長

説明可能な範囲で構わないので、非行の具体的内容は？

○橋田孝主任研修指導主事

詳細は控えますが、例として「物を壊してしまった」「眼鏡を壊してしまった」など、暴れてしまった事案の相談が含まれます。高校では市街地での問題行動に関する相談もありました。

○田代高章会長

次のご発言ありますか。木村協議員どうぞ。

○木村直樹協議員

教員の不祥事（盗撮等）に関する報道が多く、親として心配です。対応する研修はありますか。

○吉田幹伸研修部長

コンプライアンス研修は毎年、初任者研修でも必ず位置付けています。教職員課からの要望も受け、研修への反映を進めています。受講した管理職が校内で再周知することも重要です。

○田代高章会長

道交法違反・飲酒、体罰、わいせつ事案は懲戒処分の対象であり、コンプライアンス徹底は進んでいるはずですが、現実に不祥事が起きている。性暴力関連は法改正もあり厳格化されており、SNS 上の性関連情報の氾濫への対処も重要で、センターの研修や大学教育においても意識していく必要があります。

Ⅱ　令和８年度事業について

○田代高章会長

次は令和８年度の事業について、事務局から説明をお願いします。

○吉田幹伸研修部長

令和８年度のセンター業務の運営方針等について、４点です。

・研修観の転換を踏まえ、重点を絞って研修を改善・提供。
・本県重点課題（学力向上、不登校対策、ICT 活用）に引き続き注力。
・国の方針と整合し、教師の主体的参加を促す研修体系・中身・形態の改善。
・学校に役立つセンターのミッションとして、研修で得た知識・スキル・態度を現場で効果的に活用できるよう支援。

業務推進体制の見直しについては、担当室間の連携強化、業務の平準化と働き方改革を進めていきます。研修推進委員会、研究推進委員会、及び支援推進委員会の構成は継続していきます。

研修事業のポイントは、

・講義から実践への転換を図り、主体的・協同的に学べる活用型・探究型への移行を目指す。
・リフレクションの記述を重視し、次の取組に繋げる。

・ICT 活用をさらに拡大。
・教師の主体的学びの支援を図り、ファシリテーション研究の成果を「自己研修」に活用し、所員が内省と意欲づけを支援する。
・BYOD 推進し、来年度は紙配布を原則停止し、タブレット持参で資料閲覧（接続困難な端末はセンター機貸与で対応）。
・課題変化に応じ見直しを図り廃止・新設を行なっていく。
　になります。
　令和８年度の研究は、県教委要望２本＋センター単独１本の計３本となり、岩手県教育研究発表会はこれまでの３日間開催から来年度は２日間開催へ見直します

○松本諭支援指導部長
　今後、生成 AI が教育現場での更なる活用が促進されることが予想され、教育現場における生成 AI の効果的・効率的な活用を目指し、学校への支援を充実させていきます。教育相談コーディネーターを育成するとともに、通級指導の教員を育成するほか、現場における支援が必要な生徒への相談及び支援について柔軟に対応していきます。不登校児童生徒への対応については、引き続き、ふれあいルームの運営に取り組むほか、電話相談、来所相談の他所員による訪問相談についても更なる充実を図っていきます。

○田代高章会長
　令和８年度事業について御意見はございませんか。

○鬼柳一宏協議員
　私立の高校等に通学する生徒も相当数いると思いますが、センターで実施している研修は、公立の学校に勤務している教員を対象にしているのでしょうか。私立学校の教員を対象にした研修との連携等は行われているのか、また、今後、連繋の予定があるのか等について伺いたい。

○吉田幹伸研修部長
　私立学校の教員に対する研修との連携は行なっていない。申し込みがあれば、有料とはなるが受講は可能です。

○佐々木寛所長
　私立学校についても手続きを行なって貰えれば、受講していただくことは可能ですし、ふれあいルームの利用や相談についても私立と公立とで設置者は異なるが、必要な支援を行なっています。

○鬼柳一宏協議員
　私立学校側と定期的に意見交換等の会合は行われている訳ではない？

○佐々木寛所長
　初任者研修などの法的な研修については、それぞれの設置者が実施することになっているので、意見交換等は行っていません。

○田代高章会長

公立学校と私立学校で設置者が異なっていますので、本当は、連繋・共同ができる体制があればいいと思うのですが、現時点では法制的には公立学校と私立学校が分かれている以上、ここのセンターは、県立ですから研修機能を担う場合にはどうしても、公立中心にならざるを得ない。ただ。私立学校においても同じような内容の研修が必要な場合もたくさんありますから、そのあたりには開くという形にはなっているとかとは思います。私立学校側から大学に研修の要請依頼が来ますので、よく研修はしますが、受講生の皆さんに聞くと、ここのセンターの研修に行くことは無いということの方が圧倒的に多く、その辺の対象を広げていくことは今後の課題ではないかと思います。私立学校側でも同じような研修をどうやったらいいかということは意識しています。ただ、最近は、NITS もありますから、オンデマンドも含めてオンラインによる研修も充実してきていますから、対面以外のところで、私立学校側の希望があれば、そういったところでの研修を充実させることを通して全国的なレベルの研修の機会は保障できている現実はあるのかなと思います。でもやはり、公立と私立の違いはあるので、そこをどう繋いでいくかということかと思います。

○山下泰幸協議員

様々な学校の保護者の方々と話をしている中で、一部の声ではありますが、学校によって授業における AI や ICT の活用状況が違っていると感じることがあるので、授業の質の違いがあまり出ないように、AI や ICT に関する教員の研修を実施していただきたい。あと、令和８年度の研究テーマの「小中連携による授業研究会の在り方に関する研究」について、あまり連携できていない現状があるからだと思いますが、この研究に期待しています。

○田代高章会長

今の件について、事務局から何かありますか。

○吉田幹伸研修部長

小規模の中学校ですと、同じ教科の教員がいないこともあり、どのように授業をしているのかということが分かりにくいとう面もあると思いますが、センターでの研修で他の教員の授業の実践を見聞きすることで分かることもありますし、授業の質の格差があってはならないので、センターの方でも、AI や ICT の授業の活用の仕方を積極的に研修の中に取り入れていかなければならないと思っています。

○田代高章会長

これは昨今の状況で言えば、YouTube 等の動画で様々なモデル授業というものが配信されていますが、センターのアーカイブや HP 等で ICT を活用した授業の動画を配信していることはありますか。例えば、ロイロイノートの有効活用や授業実践事例などは、本当は共有して十分なレベルだと思いますが、本人の承諾が得られれば、可能だと思いますが、ただ、研修の対象でない場合の教員については、教員の意識が薄くなったり、研修を受講していても切迫感が無く、明日の授業でどう使うべきかと悩んだ時に、即座に参考になるような動画資料があれば、学校の違いをフォローアップしたり、先生の意欲に応じた自己研修の一環として、センターの動画配信を見て日常的にスキルアップできるの

ではないかと思いますが、そのあたりはどうお考えですか。

○千田晋久主任研修指導主事

ロイロノート等については、必要性が高まっておりまして、来年度、研修講座も持ちますが、オンデマンド動画をHPにアップする準備をしております。

○田代高章会長

来年度は、そういうものが公開される予定ということですね。

○横手勝美協議員

先日、岩手教育研究発表会に参加させていただき、東京学芸大学の堀田教授が講演をされていましたが、ICTの活用は極めて重要だと感じたところであり、先生方にICTの活用の必要性を広めていきたいと思ったいい講演でした。

○田代高章会長

一般的に、ICT関係は、若い先生に期待してしまう傾向がありますが、教員全員の研修にはなりくい現実がこれまではあった気はしますから、全ての教員が生涯学び続けるということは、子供だけでなく教員にも求められている状況ですから、年齢に関係なくキャリアに関係なく、全ての子どもに対して、より良い教育、あるいは学習指導、生徒指導、生活指導に展開できるような、支援ができるような意識を持って欲しいと思いますので、校長等の管理職は、全ての先生方にそういう情報活用能力を身につけられるよう対応を期待します。

○市川尚協議員

オンライン上のコンテンツの話で、NITSや教職員支援機構、文科省等でもYouTubeでも研修内容を積極的に動画配信されていますし、オンラインの研修を全国的に受講できる状況において、そういう動画とセンターにおける研修との関係をどのように捉えているでしょうか。例えば、この動画があるのであれば、センターで研修を行わなくてもいい場合もあるのではないか、また、受講者があまりにも少ないものは、既存の動画をみてもらえればいい場合もあるのではないかと思うのですが、どのようにお考えでしょうか。

○吉田幹伸研修部長

NITS等の動画との関連性をあまり精査していない実情ではありますが、岩手県が作成している教員等育成指標を見ながらリンクするように研修を組んでおり、NITS等は全国的な課題に対する研修だと思われ、センターでは県独自の課題などに対する研修も盛り込んで実施しています。全部置き換えることはできないと思いますが、うまく活用しながらやっていくことは今後必要になってくるかもしれません。

○市川尚協議員

基礎的な部分は公開されている動画で学んで、それ以外を対面で研修する意義もあり、大切なことだと思いますので、それをうまく生かして組み合わせれば、センターの負担軽減にも資するのではな

いかと思います。

○松本諭支援指導部長

Tサポメールで NITS 等の優良コンテンツは紹介しています。センターの役割は県の課題や個々のニーズに即した研修提供と考え、使い分けています。

○田代高章会長

今説明があった内容を、一覧表であったり、研修の手引きであるとか系統的・体系的に示して、受講する方々だけではなく、県内の先生方が研修体系を一覧できるようなものがあれば、教員各自の自己研修あるいは職能形成に向けて、こういう研修、動画を利用していけば更なる自分のスキルアップに繋がるのではないかといつも思うのですがいかがでしょうか。資料の中にも、研修の系統性・連続性を高めるとありますが、全国配信、公開している研修動画の位置づけも含めて、センター独自の研修をそれぞれの研修の種目やレベルに応じて整理された体系表のようなものがあればいいと思います。メールとか個別には色々情報発信はされていると思いますが、全体系が分かるものを私個人的にも欲しいなと思っています。受講した先生方も自分が受講した講座がここに位置付けられていて、それに関連する全国の配信動画がどこにあり、岩手県独自の研修は対面研修等でやるのだということが自覚できればすごく分かりやすい。センターの研修を受ける前に全国レベルの知識や技能を身に付ければいいかということを全国配信動画で事前に見ておいて、更に、本県独自の研修で深めていくということがあれば、有効性が高まるので、それぞれの先生が各自で意識化できる仕組みがあるといいなと思います。どうでしょうか。研修それぞれの関連性と体系的・系統的な位置づけということですが、これは教員が個人でやるということは無理なので、センターが中心になって呈示すれば、教員育成指標を見て教員自身がどのレベルにあるか分かるので、足りない能力を身につける研修がどうなっているかという体系表が欲しいところです。個々人で判断して必要な研修を受けやすく、また、意識変革も促すような資料があるといいなと思います。

○山下泰幸協議員

Tサポメールですが、今登録数 615 名ということですが、教職員数に比較してもっと増えるといいと思いますがいかがでしょうか。登録は任意でしょうか。

○松本支援指導部長

研修講座のたびに案内をしておりまして、登録した教員に情報を週 1 回届けるという仕組みです。

○千田晋久主任研修指導主事

補足させていただきます。学校の代表アドレスにも送っているメールもあるので、615 名ではなく、615 箇所に送っているということになります。学校に送ったものであれば、その中で共有していると思います。

○山下泰幸協議員

そうなのであれば安心しました。志が高い人が少ないのかなと勘違いする数字でしたので、その説明で安心しました。

〇田代高章会長

ちなみにＴサポメールでは、文部科学省で今の喫緊の教育課題について常にメール配信していますが、それも参考で添付はしているのでしょうか？一般の先生方がなかなか情報が広がるのが遅いなというところがあってですね。例えば、次期改定学習指導要領論点整理が９月に出て、教職大学院で最初10月頭で大学院生に聞くと知らないというのが圧倒的です。ましてや公立学校の先生方ほとんど知らないのでは。さすがに３、４ヶ月経つと普及はしてきているとは思いますが、そういう早い情報は関心のある先生にはどんどん吸収していただくという機会も、場合によっては必要かと思います。そういう案内もぜひＴサポメールでもしていただけるとありがたいかと感じました。協議題の２つ目については以上で終了とさせていただきたいですがよろしいでしょうか。それでは、最後の協議題３番目、その他、生成AIを活用した校務の効率化に関する研究について事務局の方から説明をお願いしたいと思います。

Ⅲ　その他：生成AIを活用した校務の効率化に関する研究について

〇芦澤研修指導主事

先ず、研究の背景からですが、文科省の調査等で、教員の１日あたりの在校時間が非常に長くなっているというところが、課題として挙げられております。本県の調査でも、県立学校の高校の先生も、時間外の在校勤務が非常に長くなっているという実態も報告されています。このような状況の中、文部科学省は教職員の働き方改革を進める上で、生成AIの活用の推進が急務であるということを指摘しています。県の教育委員会においても、教職員のICT活用指導力の向上と、校務の効率、情報化を重点施策として位置づけています。先行研究では、生成AIの適切な利用についての知識習得や実践的な演習、段階的な習得が必要だということが報告されています。

この様な背景を踏まえて、本研究では、教職員の生成AI活用スキルを向上させることで、生成AI活用による校務の効率化を進め、教職員が教育活動に専念できる環境を整備することを目指しました。これにより、働き方改革と、質の高い教育の持続的な提供にコミットしていきたいと考えておりました。

その実現に向けて、お手元に別冊としてお渡ししてありますが、「校務における生成AI活用ガイド」というものを作成しました。現時点でのものということでお配りしております。３月に、最終段階のものをホームページの方で上げる予定であります。

本研究の実施にあたっては、ご覧の小・中・高等学校各校種の先生方にご協力いただきました。本研究では、教職員の生成AI活用スキルというものを次の５つの要素として定義しました。①生成AIの特性理解、②効果的なプロンプト設計、③活用場面判断、④出力評価、⑤倫理的配慮、これらの５つを教職員の生成AI活用スキルの要素として、定義いたしました。これらを総合的に向上させることで、効果的かつ安全な活用が可能になると考えました。研究では、事前事後でこれらを測定し、変容を検証しました。校務における生成AI活用ガイドは、先ほどご説明した、５つのスキル要素を段階的に学べるように設計してあります。また、こちらはあの校内研修等でテキストとして活用されることも想定し、実践的な内容を盛り込んで、デザインしております。

本研究では、校務における生成AI活用、生成AIの活用場面、期待できる場面を、５つのカテゴリーに整理してあります。こちらの文書作成からこのアイデア創出にまでの５つになりますが、後ほ

ど、教育センタープロンプトというものも紹介いたしますが、そちらも同じようにこちらの５つのカテゴリーに分類してリスト化してあります。また、本ガイド内には、研究を進める中で、先生方から頂いたご意見をもとに作成したコンテンツ、資料等が付録として収録してあります。例えば、生成 AI の基礎知識を短時間で学べる動画であるとか、ハルシネーション、生成 AI がこうやってしまう、出力してしまう誤情報、そのファクトチェックの方法を具体的な方法を示した PDF など、生成 AI の活用に役立つ資料を２次元コードからダウンロードできるようにしております。

研究にあたりまして、協力校の先生方を対象に事前調査を実施しました。使用経験については約 6 割の先生が一度は使ってあるということが分かったことという状況でした。一方で、活用状況を見ますと、半数以上が殆ど活用していないと、回答されました。つまり、使ったことはあるものの、継続的な活用には至っていないという現状が明らかになりました。意識調査も行いました。活用への関心であるとか、校務の効率化、時間短縮効果についての期待は、非常に高い値でしたが、同時に、個人情報の漏えいですとか、誤った出力結果に対してこの不安があるという声も頂きました。つまり、生成 AI の活用に期待はしているが、スキル不足であったり不安感であったりしたものが、活用の促進を阻んでいるということも明らかになりました。

では、なぜ活用が進まないのかということです。事前調査で生成 AI 活用スキルを５段階で自己評価していただいたところ、最も低かったのがプロンプト設計、つまり、生成 AI への指示文を作成するというスキルでした。実際に先生方からは、どのように指示したらいいか分からないとか、返ってくる答えが期待と違うといった声が寄せられました。このプロンプトの作り方が分からないという課題を解決することが、本研究の出発点となっております。

第１回の研修会では、こちらの４つの内容を設定して行いました。研修ではお手元の活用ガイドをテキストとして使用しました。先ず生成 AI の基本理解とセキュリティの配慮事項について確認いたしました。活用ガイドでは、生成 AI の得意分野と注意点をこのように整理してあります。この中でも我々教員ですので、特に、個人情報ですとか、機密情報っていうのは入力しないことや、出力内容は必ず自分で確認し、ファクトチェックを行うっていうことは、強調して研修を行いました。また、校務における具体的な活用事例の紹介と、教育センタープロンプトの使用体験も行いました。こちらが教育センタープロンプトになっています。Excel 形式で作成し、先生方がコピーペーストで使えるようにしてあります。右側のオレンジ色のところが先生が実際に入力するところで、左側にはあの項目がもうあらかじめ準備されていまして、そちらに回答するような形で、ここでは文字で入力していますが、選択肢を用意しているものもあり、番号だけで選んでいけばどんどん、進むというような形のプロンプトになっています。各校務に合わせて、110、100 種類近くのプロンプトを作成し、リスト化して、先生方にお配りして、実際の校務に使っていただいたという研究でした。第１回の研修会の参加者からは、便利そうという声も上がりましたが、同時にやはり使いこなすまで結構大変だなという不安の声も上がってきました。

この結果を踏まえて、より体験的な演習が必要だなということで、第２回の研修会を設定いたしました。こではこの「カレー作りプロンプト」という体験的な演習を行いました。カレー作りというこう馴染みのある題材を使うことで、先生方の活用への心理的なハードルが下げられると思い、設定いたしました。この演習は、生成 AI への指示文である、プロンプトによって、出力の質が大きく変わるっていうことを体感していただくことが目的でした。具体的には、生成 AI の役割ですとか、目的、対象、前提条件、出力形式などを明確に伝えると出力精度が高まるという研究結果が出ていますので、こちらを実感していただくという演習でございました。体験をした先生からは、プロンプトの書き方

で出力が変わるっていうことが実感できたというような声が多数寄せられました。実際のカレーを作るプロンプトは実際に学校ではやらないのですが、カレー作りを指示する時、こういうプロンプトを書けばいいという、例として、役割や対象などの細かい条件を入れて、出力させるといいということを体感していただきました。ただ、実際の校務でこれに合わせて全部作るっていうのは結構大変だろうということで、先ほどの Excel プロンプトを開発して配ったというようなことになります。実際の使い方はこちら動画で、先生たちにこれを見ていただきながら研修を行いました。

実践の研究ですが、このような研修会に加えて、継続的な活用支援も同時に行いました。この支援の特徴は、先生方の願いや悩みを起点とする協同的なプロンプト開発です。先ず先生方のニーズを聞き取り、センター所員が初期設計、プロンプトの初期設計を行います。次に、先生方とそのプロンプトを一緒に試しながら、改善点を洗い出してブラッシュアップしていきます。そして完成したプロンプトを、リストに追加して、他の先生方、他の学校の先生方とも共有しました。

研究協力校での実践例をいくつか紹介します。初めに小学校ですが、学習発表会の劇のシナリオを作成したという事例であります。活用前は、大体 10 月くらいに学習発表会行うところが多いので、この先生は夏休み中にシナリオを作成に取り掛かり、15 時間以上、毎年かかっていました。この生成 AI を活用した後は、学習内容、学習発表会ですから、学習内容をもとにこう劇を、シナリオを作っていくわけですが、その学習内容や、その時に参加できる人数、子供の人数とか、そういうものをプロンプトに入力していくと、たたき台が生成されます。これにより生成されたものを調整して会議に提案するというところまで、約 30 分で完了したということでした。時間の削減でいうと 97%と非常に高い効果が得られました。それ以上にやっぱり負担感がすごく減ったという声をいただきました。15 時間が 30 分で済むようになったと。夏休みにゆとりが出来、授業の準備や教材研究、そして何より児童との関わりに時間を使えるようになったという声を頂きました。

続いて中学校です。学校行事の後に実施する、教職員対象のアンケートの分析報告書の作成という事例です。こちらも、手作業で分類を行って、これまではあの改善検討案を担当の先生がやり報告書に作成し、全部で４時間以上かかっていたというお話でした。活用後は、KJ 法による分類と改善案の提示までこうプロンプトで一括出力するようにしましたので、確認修正含めても１時間程度に短縮されたということでした。この事例でも、時間短縮以外に、先生から分類が客観的にできるようになったと意見がありました。プロンプトでその基準を縛ってありますので一貫した基準での分類ができるようになったということであります。２つ目は再現性で、今後もこの方法で分析ができるという声をいただきました。こちらの学校は、本県で採用しています統合型校務支援システムで収集したアンケートデータを活用したものだったので、それと生成 AI の連携をすることによって、教育データの利活用という新たな、展開も見えてきました。既存のシステムをより効率的に運用できる点も大きなメリットだと考えています。

最後に高等学校の先生の授業のスライドを作成した事例でした。これまではアウトライン作成から、手動でレイアウト設定をして、毎回、授業の前に 90 分ほど時間をかけていたそうですが、活用後は、プロンプトでアウトラインをパワーポイント形式に一括変換することで、約 10 分間で基礎の作業が終了するようになったということでした。こちらの先生は、短縮された 80 分は授業構想にあてることができたということで、教材の作成が楽しくなったとか、授業改善のサイクルが早くなったという声をいただきました。作業の効率化により、授業の本質的な部分に注力できるようになった事例だと捉えています。実践の結果の分析ですが、まず生成 AI 活用スキルの変容というところで、５つの要素、全て統計的に有意な向上が確認され、中でも一番低かったプロンプト設計のところが一番向上し

たという結果が得られました。また、効果量も合わせて分析したところ、全ての要素で、大きい効果が得られました。さらに標準偏差が40%減ったということで、こちらあの教職員間の個人差が縮小したと見ることができるのかなと思います。

これらの結果から、この教育センターの研修プログラムが経験や初期スキルの差に関わらず、全体的な底上げを実現したことが示されました。次に、意識面の変容ですが、こちらも全ての項目で統計的に有意な変化が確認されました。効果量についても全ての項目で、中程度から大きい効果が得られました。特に今後も使い続けたいという継続意向のところが、効果量0.85という、全項目中最大の値を示しました。この本研修が、一過性の学習にとどまらず、持続的な活用意欲につながったというふうに捉えています。また、回答者の88.5%の先生が、生成AIの活用について前向きな変化を示しました。後ろ向きになったという回答が１人もいなかったっていうことが大きな成果の一つだと捉えています。活用頻度にも大きな変化が確認されました。最初はほとんど活用しないという方が54.2%だったのですが、14.6%へと大幅に減少しました。また、日常的、定期的な活用の先生方が19.8%だったのが50%へと増加しました。多くの先生方が使ってみたというレベルから、習慣的な活用へとこう移行したことを示しています。ただし、事後でも、未だ約30%の先生方が積極的な活用には至っておらず、活用の二極化というような課題も残っています。

次に校務の効率化ですが、67%から97%という顕著な結果が抽出した校務において得られました。特にアイデア出しとか、大量のデータを整理、分析する作業において高い効率化が見られました。また、６割以上の先生が負担感の軽減というものも実感しており、時間効率化だけでなく、心理的な負担の軽減も確認されました。特に効果が高かったのが、所見作成や保護者向け文書など、大量の記述を要する校務で、生成AIのたたき台として出力するという機能が有効的に機能したものと捉えています。また一方で、メール作成やワークシート作成など、元々負担感がそれほど高くない業務であるとか、専門性や創造性が求められる業務では効果が限定的でした。

次に、生成AI活用により創出された時間の活用方法ですが、最も多かったのが授業準備や教材研究で47.4%、また、児童生徒との関わりの時間が29.5%でした。これらを合わせると、生成AIを活用したことで生まれた時間の大部分が、教育活動の本質的な部分に振り分けられたことになります。これは生成AIの活用が、校務の効率化と教育の質の向上の両立を支える手段になり得ることを示唆しています。

本研究を通して、活用ガイドや研修プログラムの開発など一定の成果を得た一方で、活用の二極化やリスク管理など今後も取り組むべき課題も明らかになりました。今回得られた知見から、生成AIの活用によって、校務の効率化と教育の質の向上の両立の可能性が示されました。この研究成果が各学校における生成AI活用の推進の一助となればいいなと、当センターでも捉えております。

○田代高章会長

どうもありがとうございます。生成AIを活用した校務の効率化ということで、研究を踏まえた報告をいただきました。協議員の皆さんの方から何かご質問、ご意見等あればお願いしたいと思います。かなり充実しつつあるところかなと思いますけどね。今、大学生はすごく生成AIを活用しており、課題として出したレポート作成も生成AIを活用しています。そこで、私の方では自分の小学校、中学校、高等学校の自己体験を踏まえて書かせるようにしています。自分自身の自己体験っていうのは、それぞれオリジナリティがありますから、生成AIに相当な情報を打ち込まないと、レポート作成はできないので、課題を出す方としても様々工夫して対処しているところです。今、生成AIが相当に普及

していますから、学校現場でもこれは無視できないだろうと思います。いかがでしょうか。

○山下泰幸協議員

生成AIは、今の世の中、避けては通れない、上手に付き合っていかなければいけないものと思いますが、便利なものができてしまうと、人は退化してくのではないのかなと思います。昔であれば電話番号、結構覚えてはいたのですが、携帯電話というものが出てきてから、もう覚えられなくなりましたし、カーナビが出てから、道を覚えなくなりました。先生達も、私たちも同じなのですが、便利なものを使って、例えば、先生が出したこれはどういう意味なのですか、と生徒に問われた時に、生成AIが作ったものだから分かりませんという事態にならなければいいなと思っています。人間味がなくならないように、教師が教師たる存在感、ロボットみたいにならないように、そこだけは注意してもらいたいと思います。

○市川尚協議員

生成AIは発展の速度が速く、１年前の話は通用しない状況ですので、センターが研究した内容もおそらくどんどんアップデートしていくのも大変になると思います。生成AIは、グーグルのような検索ソフトにも組み込まれていますので、多くの高校生や大学生が生成AIを普通に使用しており、小学生や中学生あたりの実態は良く分りませんが、子供たちの生成AIとの関わり方をかなり考えて行かなければならないことが１点です。

また、今回、学校の先生の生成AIの使い方を研究されたわけですが、そもそもセンターの方では、どのように生成AIをしようされているのでしょうか。生成AIは使わないと分からない部分もあると思うのですが、センターの中での生成AIの業務の効率化等に向けた活用は結構使われているのでしょうか。

○吉田研修部長

各研修講座の必要な場面において活用しており、必ず使用しているということではありません。

○市川尚協議員

生成AIの研究では、アンケート結果の分析なども行ったようであるが、ちゃんと分析できたのでしょうか。ハルシネーションという言葉を聞いたことがある人もいるかもしれませんが、AIは平気で誤った回答をすることがよくあり、技術的にはかなり改善されてきているようですが、アンケート項目の分析をすると、かなり間違った回答もあったでしょうか。

○芦澤研修指導主事

研究を始めたころは、確かに、誤った回答もあったため、プロンプトでかなり作業を細かく指示していた。それでも、アンケート結果が少なかったりすると、誤った回答があったため、先生方には他の生成AIの使用を試したり、同じ生成AIでも別のプロンプトで同じ分析結果がでるかどうかをユーザーの方で見極めながら生成AIを活用するように指導していた。

○市川尚協議員

先生方にはそういった使い方を身に付けてもらう必要があると思います。

○田代高章会長

プロンプトを打ち込む時の条件設定で決まってくると思います。憶測情報では回答しないこと、曖昧情報ではデータ処理はしないこと等のプロンプト設定について、我々は学生に指導している。その上で、分析などではどの研究方法を取るのか、出典は何か、根拠を示すこと等について、追加情報で打ち込んでいくと精度がどんどん高まっていく。そういうやり方をすると、これ以上の情報がないので、正確な分析はできません等とAIが答えてくる。それを基に我々は受け止めることができ、他の方法で試して真偽を確かめることができ、ファクトチェックをしながら生成AIを活用できればいいと思いますが、おそらくセンターではそういったことも検討しながら手引きをつくられているのだろうと思います。

それでは、時間も押してきていますので、生成AIを活用した校務の効率化に関する研究については、以上で終了させていただきます。本日は、協議事項等３つについて、協議させていただきましたが、全体を通してご意見等がありましたら、頂戴したいと思いますが、いかがでしょうか。

○菅崎晋協議員

先日の教育研究発表会に参加し、先進的な情報に接することができ、有意義な研修であった。本日は各協議員から様々な情報をいただき勉強になり、今後、学校現場で生かしていきたい。

○横手勝美協議員

今日は大変ありがとうございました。

○高橋幸美協議員

生成AIの研究について、本校は研究協力校として参加させていただきました。本校の教員は、生成AIの活用については、だいぶハードルが下がった気がしており、今後、校務への活用に繋げ、働き方改革に生かしていきたい。

○坂水かよ協議員

生成AIの研究の説明の中で、これまで15時間以上かかっていた仕事が30分で処理することができるようになったというのは驚きでした。幼稚園業界は８割ぐらいが私立学校になりますが、幼稚園の新任教員研修の日程や研修期間などについても様々ご配慮いただき、感謝申し上げます。

○山下泰幸協議員

教員の質というか学びが深まれば、学校の良いイメージに繋がり、保護者とのやり取りもうまくいくと思いますので、引き続き、色々な場面でよろしくお願いしたい。

○木村直樹協議員

花巻北高校は、定員割れの状態であるが、私立の花巻東高校などではすごく魅力的な学校運営をされ、部活動や大学進学の実績も上げているところもあり、公立学校の方も生徒がたくさん入るよう頑張っていただきたい。

○市川尚協議員

今日は、センターからの説明を色々聞かせていただき、しっかりやっていると感じたところです。時代の流れが非常に早いなかで、次年度に向けた論点を整理するなどされており、教育センターにおいては、時代に合わせた柔軟な御対応を引き続きしていただきたいと思います。

○村上弘協議員

生成AIは、校務の効率化という観点からみると非常に良いツールだと思います。全ての校種において役に立つ研究だと思いますので、こうした研究は引き続きお願いしたいと思います。

○鬼柳一宏協議員

生成AIの研究の中で、活用頻度の変化など実践結果の分析がありましたが、活用を先生方に任せると先生方の意識なりの生成AIの活用になってしまうのではないか。我々ものづくりの会社では、デジタル改善や自動化改善を行う場合、それによって生み出された時間の使い方を従業員に任せてしまうと、会社として使って欲しい時間に使わないケースや、デジタル改善をしないで従来と同じやり方を続けるケースもあるため、創出された時間を何に使って欲しいかを示した方が先生方も積極的に活用するのではないかと思いますし、創出された時間がより質の高い業務に充てられるのではないかと思います。

○恒川かおり協議員

変化の激しい時代の中で様々な研究や事業を推進していると感じました。私どもの団体は、花巻中学校さんを始めとした各学校やアイオー精密さんなどの企業さんと連携して、先生方の負担が少しでも減るようにという思いも込めて子供と大人が学び合う活動をしております。全ての先生が同じような知識を持って変化の激しい中でスキルアップをしていくことはとても大事なことだと思いますが、過渡期においては先生方も精神的に大変だと思います。そうした中で先生方の業務を軽減するためにもAIを活用することによる仕事の効率化に結び付くまでには未だ負担感はあるように感じます。今、教員不足について報道されている状況において、教師という職が魅力的に感じられるためには、先生方がいきいきと仕事をすることが重要だと思います。技術的な知識を修得してスキルアップするだけでなく、先進的な取組を行なっている企業等からの情報収集を行い、また、私どものNPO等とも連携をさせていただくこと等により、先生方の人間性の向上や魅力をアピールできるような取組を進めて欲しいと思います。

○田代高章会長

本日は、センターの研修事業の充実について窺い知ることができましたし、生成AIの活用は、学校現場で最も必要な部分であろうと思います。働き方改革は、教員にとって非常に大事なことであって、本当はもっと子供と向き合いたい、もっと授業の準備に時間をかけたいと思いながら、それがなかなか出来ない現実があります。岩手大学の卒業生にもいえることですが、教育学部の学生として入学しても、卒業時には教員の道を断念して、他の道に進む学生もいます。我々もどのようにしたら教職の魅力を伝えられるかといつも悩んでおります。研修を通じて先生方の意欲が湧いて、子供たちと向き合い教えることを楽しみ、こころにゆとりが持てるようなセンターの研修を充実させていただければ思います。今日は協議員の皆様大変ありがとうございました。それでは、進行は事務局にお返し

します。

○高橋総務部長

田代会長、大変ありがとうございました。

次第の５のその他ですが、皆様から何かありますでしょうか。（なし。）

所長から何か発言がありましたら。

○佐々木寛所長

本日は大変ありがとうございました。様々なご意見をいただきまして参考になりました。皆様のご協力をいただきながら事業を進めてまいりたいと思います。

○高橋総務部長

それでは、以上をもちまして、令和７年度　岩手県立総合教育センター運営協議会を閉会とさせていただきます。大変、ありがとうございました。